

小学校高学年

～総合学習版～
発問計画

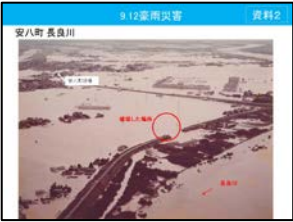
発問計画・学習教材

1. 過去の自然災害

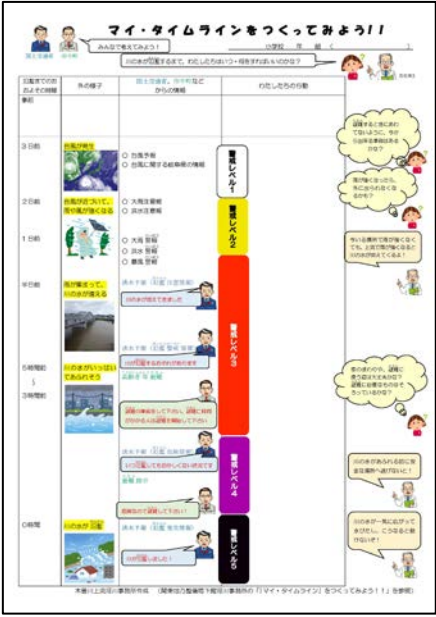
本時のねらい（目標）

水害を自分事として認識し、水害には予兆があることを理解したうえで、事前の備えについて考える。

※指導計画の「」は、予想される児童の発言（児童に伝えたい発言）を示す。

流れ	発問計画	指導上のポイント	教材解説
導入 (5分)	1. 自然災害を意識する。 発問： 最近全国で大きな水害が発生しています。 水害が起こりそうなとき、私たちは何をすべきか考えながら、映像をみましょう。 (映像を流す)	・ 自然災害の恐ろしさを意識させる。 ・ 事前の備えが大切であることを認識させる。	【映像 1】近年の大規模な自然災害の映像とマイ・タイムラインの必要性に関する映像 平成27年 関東・東北豪雨  マイ・タイムラインがないとき  マイ・タイムラインがあるとき 
展開 前段 (10分)	3. ハザードマップや地域の浸水写真等を用いて、身近な地域でも浸水が起こりうることを実感する(自分事に繋げる)。 発問： (近年水害による被災がない地域では)この地域では水害の危険性はないのでしょうか？ (【資料1】ハザードマップ、【資料2】地域の浸水写真を掲示) 発問： ハザードマップや写真をみてわかることはなんでしょう ⇒リスクの考え方について必要に応じて修正 ・ 小学校や自分の家が浸水するかもしれない ・ 浸水深が高く、危ない など	・ ハザードマップの見方(地図の色の意味や洪水時の避難所が記載されていること)を理解させる。 ・ ハザードマップで浸水していない場所でも、小さい河川や水路、下水から水が溢れて浸水する場合もあるため、低い土地や水路近くは危険な可能性があります。	【資料1】ハザードマップ ※市町村のホームページ内の「洪水ハザードマップ」や、ハザードマップポータルサイト https://disaportal.gsi.go.jp/ などで、地域のマップを確認ください。 【資料2】地域の浸水写真  

流れ	発問計画	指導上のポイント	教材解説
	【参考】 「ハザードマップについて」 ・ハザードマップには、洪水・土砂災害・津波など種類があります。 ・ハザードマップに掲載されている浸水範囲は、浸水想定区域図が公表されている河川（法律で決められた河川や国・県・市が特別に必要と判断した河川で、浸水する範囲などをシミュレーションしたもの）のみを対象としています。小さな水路などが溢れた場合やハザードマップ以外の範囲が浸水することもあります。 ・ハザードマップは複数の浸水想定範囲を重ね合わせて、最大となる浸水深を示している場合もあります。 ・浸水想定区域図が更新された後、ハザードマップも更新されますが、その時期は地域によって異なります。市町のホームページなどで最新の情報を確認する必要があります。		
展開 後段 (25 分)	3. 水害には「予兆」があり、突然起こる地震とは異なり、避難行動の準備ができることを知る。 また、各自必要な準備や行動・そのタイミングを、自分事として考える。 発問： ・では、どのタイミングで、どんな行動をとるべきでしょうか。 ・台風が発生したら、持ち物を準備する ・台風が発生してから避難したあとも、情報の確認は必ずとする など 発問： ・今みんなで考えた、いつ、何をするかイラストをヒントに、マイ・タイムラインを、作成シートに記入していきましょう ※各自（個人の家で異なる）の行動を考え記入させる ※グループで共有・話し合いをして、自分では気付かなかった行動に気づく ※マイ・タイムライン作成シート（標準版）に記載の「警戒レベル」の説明が必要な場合は、資料1（掲示資料（参考））を参照ください。	・時間経過と行動をイラストでイメージさせる ・「低い土地へ逃げる」、「川のようなすを見に行く」は危険なので絶対しない ・児童の意見を引き出し、タイミングカードの横（下）に、キーワード（ヒント）カードを並べていく	【資料3】タイミングカード  【資料4】キーワード（ヒント）カード  【資料5】（参考）警戒レベルについて 避難の目安となる「警戒レベル」 資料1 警戒レベル5 : すでに災害が発生しています。命を守るための最善の行動をとりましょう。 警戒レベル4 : 全員避難（すぐに避難先・安全な場所へ） 警戒レベル3 : 高齢者、障害のある人、乳幼児などは避難。それ以外の人は避難の準備をしましょう。 警戒レベル2 : 避難行動の確認をしましょう。 警戒レベル1 : 災害への心構えをしましょう。 ※これは目安です。自分で判断して、早めに行動を起こすことがなにより大事です。

流れ	発問計画	指導上のポイント	教材解説
	解説： ・水害は、地震のように突然発生するのではなく、台風が発生して、近づいてきて、大雨が降って…というように、「予兆」があります。なので、家が浸水するような状態になる前に、準備をして逃げる事ができるのです。 ・マイ・タイムラインシートに記入したような行動を、危なくなる前に実施することが、自分や周りの人の命を助けることになります。		【マイ・タイムライン作成シート（標準版）】  【マイ・タイムライン作成シート（簡易版）】 
終末 (5分)	3. 家の人と話しあい、各家庭のマイ・タイムラインを作成したり、一人で行うときにどのような行動をすべきか、話合うこと、また、台風がきたときには練習として行動を実際に試してみる（うまくいかないことがあれば書き直す）ことを促す		

授業のポイント

近年の水害や地域で浸水した際の写真等を用いることで、水害をより身近に意識させ、「自分の命は自ら守る」大切さについて授業を通して児童に伝えたい。